

上尾市議会議員 無所属

ばんどうともこ

行政を監視し徹底調査 その予算、本当に必要ですか？

3人の子育て経験！
47歳

900億円以上ある市の予算が、無駄に使われていないのかなど、疑問に思うことは、情報公開請求などの方法で調査し、不適切だと感じる事業には改善を求めたり、行政の監視に重きを置いて議員活動しています。

令和7年12月定例会 一般質問

一般質問とは、議員が市長ほか執行部に対して、市政全般にわたり質問・要望を述べることをいい、各定例会において行われます

市政レポートの詳細はYouTube→



リチウムイオン電池の回収について



Q 戸田市・蕨市で実施している、リチウムイオン電池等回収袋配布について、上尾市も参考にしていただきたいが、ご見解は。

A (環境経済部長)

透明な袋に入れて不燃ごみと分けて集積所に出すことができるよう変更いたしました。また、「ごみ収集カレンダー」や「ごみ分別アプリ」にも大きく注意喚起を掲載し、公共施設に設置した「小型家電回収ボックス」への廃棄など、適正な処理方法をお知らせしております。(答弁概略)

現行の方法では、周知が足りていない、危機意識が低いと感じます。戸田市の回収袋には、例として、ハンディファン、加熱式タバコ、モバイルバッテリー、スマートフォン、ゲーム機、ワイヤレスイヤホン、電動歯ブラシ、電気シェイバーが掲載されています。回収袋の効果については調査いただき、良い取り組みは率先して取り入れるよう要望しました。

文教経済常任委員会（2024年1月～2025年12月の任期2年）

この2年間での所管事務調査(常任委員会が、担当分野の行政事務について、自主的に行う調査)の提言書を提出しました。下記の3つについて提言されています。

- ①学校教育環境の整備と持続可能な運営について
- ②児童生徒への支援体制と教育の質向上について
- ③環境政策の推進と中小企業への支援について

提言書全文はブログに掲載

市政
レポート
Vol.8

市民コメント制度について

Q 上尾市市民コメント制度要綱第6条4項には「意見の提出方法は、郵便、ファクシミリ、電子メールその他実施機関が適当と認める方法とする。」と書かれている。オンラインでの提出であれば、市民の皆様も気軽に意見を投稿できると思うので、入力フォーム(Googleフォーム等、スマホから容易に意見投稿できる方法)などオンラインでの提出も明記していただきたいが、ご見解は。

A (市長政策室長)

現行の要綱にて対応できていることから、改正は予定しておりませんが、今後、事務処理マニュアルの改訂の際には、「その他実施機関が適当と認める方法」の記載の例示について、検討してまいります。



市民が意見を投稿しやすい環境づくりに取り組んでいくことは重要です。なので、早急にマニュアルの改訂と職員への周知を行なうよう要望しました。

会派「凜結会」を結成しました！



12月3日、津田議員と金澤議員と共に会派「凜結会」を結成しました。最年長の私が、代表となりました。また、会派結成に伴い、これまで参加が叶わなかった委員会や代表者会議への参加が可能となり、議会活動の幅がさらに広がることになります。これまで以上に活発な議員活動に努め、上尾市政を前へと進めてまいります。



12月定例会で、坂東知子は下記の所属委員になりました。

「総務常任委員会」

所管事項：一般会計の歳入全部、市政の企画・調整、広報・広聴、行財政運営、市有建築物の建築・修繕、防災・危機管理、交通対策・防犯・選挙・監査など

「議会運営委員会」

※会派設立により参加
議会運営のため議員間の意見調整を行い、会期、議事日程など議会を円滑に進行させるとともに、議会に関する条例・規則などについて審査

「上尾伊奈資源循環組合議会議員」

※会派設立により参加
令和15年稼働予定の新ごみ処理施設に係る計画の策定に関するこ

「上尾・伊奈広域行政協議会」

所管事項：上尾伊奈斎場つじ苑、上尾・伊奈広域ごみ処理施設原市沼調節池、上尾・伊奈消防

「上尾市廃棄物減量等推進審議会」

※会派設立により参加
上尾市のごみ収集回数や分別方法の決定に大きく影響する審議会

市への政策提言、ご指摘、ご相談は
「市政へのお問い合わせ制度」をご利用ください。
市民相談室(048-775-4643)もご利用ください。



上尾市 問い合わせ Q

坂東知子とお友達

ばんともミーティング（市政報告会＆交流会）

※市長選挙に伴い、定例会がずれ込んだため次回(5月頃)Vol.8とVol.9を同時開催します。

市民のみなさまのご意見・ご相談をお待ちしています

070-9162-1113 info@bando-tomoko.com

SNSは
こちら
X YouTube

学校施設開放運営委員会について(令和6年12月より継続)



Q 学校施設開放運営委員会のDX化について質問したが、その後の進捗状況は。

A (教育総務部長)

アンケートを実施しました。現行の運用について、約95%が「不満はない」との回答であった中、予約システム導入に関しては、半数以上の約60%の団体が賛成を選択したという結果でございました。利用団体からは「システムの導入は、空き時間の確認ができることは効率的な側面もあるが、地域の活動場所として、年間を通じて利用できたものが、抽選や争奪戦になるのは困る」という声や、「スマートロックの導入」については、約80%の団体が賛成ですが、暗証番号の漏洩のリスクを心配する声もありました。引き続き、他自治体の先進事例を調査するとともに、利用団体等の声に耳を傾けながら、DX化について検討してまいります。(答弁概略)

Q 「月例報告書は、毎月必ず提出してください」と明記されている。以前開示した際に9校が未提出となっていたが、現在の提出状況は。

A (教育総務部長)

6校が未提出となっており、令和7年度4月分から提出が滞っている状況でございます。

 公共施設の管理面でもDX化は有効的と考えるため、まずはスマートロックの導入からでも実行に移すよう要望しました。月例報告書が必要な場面もあるのではないか、独占利用を疑われる状況ではないか、利用団体には、公共施設を無料で借りているという認識を持っていただくことが一番重要であると訴えました。

市職員の労働環境について



Q 保育課は時間外労働時間が平均546時間もあり、大変驚いたが、各部の上位5名と下位5名の時間外労働時間は。

A (総務部長答弁資料より子ども未来部のみ抜粋) ※その他の部については、ブログに記載

①1,023時間 ②809時間 ③808時間 ④787時間 ⑤720時間(全て保育課)

Q 現在、管理職の時間外労働時間は把握していないとのことだが、全職員分、把握しておくべきだと思う。今後の対応は。

A (総務部長)

職員証を活用したカードリーダーシステムを導入し、令和8年2月より試験運用を開始する予定です。管理職を含めた職員の出退勤時間を客観的に把握できる体制の構築に努めています。

 自治体の負担を考慮せず制度改⾰を進める政府にも問題があるが、業務量は増加しているので、それに見合う人員確保をするよう要望しました。順次、体制の構築に努めていただけるとのことで、職員の皆様の労働時間が改善されると、期待できると思いました。市長へは、人材確保に向けた取り組みも実施するよう要望しました。

公園整備と管理について



現在上尾市では、「戸崎公園北側未利用地」と「(仮称)平方雨沼公園」の公園整備を計画中のため、加須スケートパーク(加須市)とアクアパーク(吉川市)を視察しました。

吉川市アクアパーク(バスケットコート1面、スケートボード場のある公園)

公園施設整備経費 約1億4千万円、年間維持管理費は約255万円

調整池を利用しているため高低差があり、音が横へは広がらないため、騒音問題など、近隣住民との問題もない。

戸崎公園

土地購入費用	約6億7,500万円
パークゴルフ整備	約5億8,000万円
年間維持管理費	約2,800万円
新たな公園整備	約6億円(予定)
年間維持管理費	未試算のため不明

(仮称)平方雨沼公園

土地購入費用	約1億4,500万円
新たな公園整備	約4億円(予定)
年間維持管理費	未試算のため不明

パークゴルフ場があることを知らない市民もいます。現時点での維持管理費や用地の購入費用、今後の公園整備に多額の費用がかかると知り、驚く市民もいるのではないか。また、公園にかかる年間維持管理費は未試算となっているが、今後新たに計画していく公共事業においては、整備後の維持管理費も想定の上、計画していただくよう要望しました。



国からの補助金があるにせよ、2つの公園を10億円もかけ建設したところで、賑わいの創出ができるような特色ある魅力的な市になるとも思えません。イベントなど一過性の賑わい創出ではなく、加須スケートパークや吉川市のアクアパークのような年間を通して賑わい創出の可能性も見込める公園整備を要望しました。

Q 市長選挙の際の市長公約に、「取り組みます!」と6つの項目があり【3×3バスケットボールなどアーバンスポーツ施設を整備】と掲げて畠山市長は当選されました。市長が公約に掲げた想いに見合うご答弁を市長の言葉でお聞かせください

A (畠山市長)

こどもの健やかな成長にとって様々な遊びや体験ができる場所は重要であると認識しており、屋外で遊べる機会を創出したいと考えていたことから、アーバンスポーツの施設整備を公約に掲げました。このスポーツは、2020年、東京オリンピック競技大会で注目され、今後、競技人口がさらに増加していくことも予想されており、街中の空き地等これまでスポーツで活用されていない場所の有効活用が期待できるものであります。地元自治会や近隣住民の意見を聞き、将来の財政推計を考慮しながら適地選定を行い、こどものみならず、市民の皆さまがアーバンスポーツに親しむ機会の創出に努めてまいります。



期待通りの市長答弁でした。2024年から「KASSO」という「SASUKE」のスケートボード版の大会があり、競技人口も増えていくのではないかと予想もできます。市長公約の実現に向け、取り組んでいただきたいと要望しました。